

新潟歴史資料救済ネットワーク



○新潟地震60年・中越地震20年

新潟歴史資料救済ネットワークは、2004年10月の新潟県中越地震を契機に、大学・文書館・図書館・行政等の職員や学生・院生、市民のゆるやかなネットワークとして誕生しました。2024年はその中越地震から20年、また1964年の新潟地震から60年の節目の年を迎えました。そこで当ネットでは、新潟地震が発生した6月18日に近い6月23日（日）に新潟大学にて公開シンポジウムを、その前後の期間に新潟大学旭町学術展示館で企画展示を開催しました。

両企画を通じて、この20年間にできたこととできなかったこと、地域に歴史資料を残すことの意義と今後の課題がみえてきたとともに、すでに60年前の新潟地震の際から、様々な分野で今回の能登半島地震対応につながる営みが連続しているということを実感することができました。

◀2005年5月雪融け後の旧山古志村民俗資料館搬出作業（原直史撮影）



○定期的な保全活動

中越地震で全点避難させた古文書や民具、その後の災害（2007年中越沖地震、2011年新潟・福島豪雨等）で被災した史資料について、博物館・図書館と連携しながらボランティアの形で長くクリーニング・整理・目録作成・収納替え・収納地での管理等に携わってきました。一部は目録・図録等が刊行されています。

○2024年1月能登半島地震への対応

能登半島地震の特徴は、富山湾を挟んで新潟県側に震度5強～6弱を観測したことで、とりわけ地盤が軟弱な新潟市西区での液状化現象を主とした家屋被害、遡上高最大5.8mを観測した上越市や佐渡市での津波被害が主な被害としてあげられます。2024年11月29日現在新潟県の家屋被害は23592棟にのぼり、その大部分が新潟市西区・中央区に集中し、さらに増加しています。

新潟史料ネットでは早速1月2日、県内全市町村に「歴史資料を処分しないでください」の呼びかけを行った他、ボランティアの活動開始に合わせて新潟市西区社会福祉協議会ボランティアセンターに呼びかけを行いました。こうした活動の結果、新潟県文書館が新潟県歴史資料保存活用連絡協議会（新史料協）会長名で会員の各市町村に向けて歴史資料保存の呼びかけを、新潟市文書館が同様に市民に向けて歴史資料保存の呼びかけを、また佐渡博物館からは市内各公民館への呼びかけを、それぞれ行っていただくことが出来ました。

今次の被害は新潟地震時と同様砂丘縁の低地と旧河道の軟弱地盤の液状化が原因で、多くの住家は新しく、旧家は自然堤防上の微高地に立地するため、歴史資料救済の申し出は今のところありません。しかしまだ処置がされていない家もあり、今後も注視が必要です。

新潟史料ネットでは、8月に新潟市文書館と合同で、無事であった旧家文書の確認作業を行いました。こうした作業も今後重要になるでしょう。

さらに地理的關係もあり、いしかわ史料ネットさんへの支援も今後ともニーズに応じ継続していく予定です。



▲雲洞庵文書のクリーニング作業（原直史撮影）



▲能登半島地震における家屋被害（一部損壊）（『防災クロスビュー：令和6年能登半島地震』防災科研2024）



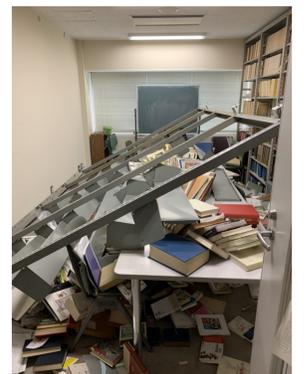
▲液状化現象による噴砂と沈降（1/2片桐昭彦氏撮影）



▲基礎崩壊により倒壊した家屋（小屋）（1/2片桐昭彦氏撮影）

▲記念シンポジウムポスター

▲展示会ポスター



▲固定釘が抜け倒壊した書架（新潟大学）（1/1原直史撮影）



▲液状化現象による沈降と水の噴出（1/2片桐昭彦氏撮影）

Webサイト <http://nrescue.s1006.xrea.com/>
連絡先（事務局）新潟大学人文学部原研究室
hara@human.niigata-u.ac.jp

